概　要　報　告

実　施　期　日	令和７年８月４日（月）
部　　会　　名	小学校　算数部会

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ

『児童が主体的に活動する算数』

提案概要

〇授業のルーティン化

児童が自ら授業を作り、自分たちの力で進めていくことができるようになることを「児童が主体的に活動する授業」として捉え、その実現を目指し、日々実践を重ねている。

児童が主体的に活動するために、授業の流れを基本的にルーティン化して行うようにしている。①めあてを確認する。②課題を一人で考える。③他の児童と考えを交流する。④全体で確認し、共有する。⑤本時のめあてに対し、まとめや振り返りを書く。授業の流れをこのようにルーティン化することで、何ができるようになればよいか、それぞれの場面で何をすればよいかが明確になり、児童が主体的に学習に取り組む力が高まり、自分たちで授業を作り、進めていくことができるようになる。

〇見通しをもった学習と振り返り

単元の初めには、児童に「単元の指導計画」を配付している。これには、単元で何ができるようになればよいか、どのような流れで授業が進んでいくか、どの場面でどの観点の評価するのか等が書かれている。この「単元の指導計画」があることによって、児童は見通しをもって学習に取り組めるようになる。

また、単元の終わりには「まとめ・振り返り」を児童に書かせている。これらを書くことによって児童は、その単元で何を学んだのか、どのように学んだのかを振り返ることができ、次の学習につなげていくことができる。この「まとめ・振り返り」は、主体的に学習に取り組む態度の評価材料としている。

〇普段から意識していること

普段から常に意識していることは、「教師の話を短くすること」と「継続していくこと」の二つである。

「教師の話を短くすること」で、児童が話す場面を増やしたり、活動する時間を確保したりすることができる。また、教師の出番が少なくなることで児童は、「自分たちの力で授業を作り、進めている」という感覚が強くなる。この感覚を強めるとともに、児童のできることを日々増やしていくことが教師の役割となる。

もう一つの「継続していくこと」は、全てのことに関わるものである。授業をルーティン化し、継続していく中で、教師は児童が自身の力で授業を作っていけるよう発言の仕方や聞き方、つなぎ方等を必要に応じて個別に指導していく。初めから児童に任せても自分たちで授業を作り、進めて

いくことはできない。こういった指導を継続していくことで徐々にできるようになっていく。

質疑応答

全体の場では特になかったが、後のグループ協議で、「自由進度学習に取り組んでいるという情報をあまり聞いたことがなく、取り組んでいる人がいたら教えてほしい。」との質問があった。それに対し、指導主事から、「単元全部で行うのは難しい。単元の中の一部や学期の中で数時間など、部分的・限定的に取り組んでいるところはある。」との情報提供があった。

協議の柱及び協議概要

協議の柱：学びに向かう姿勢を促すためには
協議に関するキーワード：授業のデザイン・授業の進め方・継続的な取組

１グループあたり４名程度で、協議の柱、協議に関するキーワードに沿ってグループ協議を行った。グループ協議の内容を一部抜粋したものは以下のとおりである。

Ａグループ
・児童が学びに向かうために、単元の指導計画や本時のゴールを示すことは有効である。
・児童にとって身近なもの、興味のあるものから題材を設定することによって、児童が主体的に学習に取り組むことができる。
・児童が、個人、ペア、グループ、タブレットを活用するなど、自分で学び方を選べるようにすることによって、主体的に学ぶことを促せるのではないか。
・タブレットの活用など、デジタル教材は便利であるが、デジタル一辺倒ではなく、児童が実際に手に取れるもの、触れられるものがあってもよいのではないか。

Ｂグループ
・児童が学びに向かうためには、児童同士のよい関係が必要。日ごろから児童の関係づくりを行っていく必要がある。
・児童が主体的に学ぶためには「わかること・できることが面白い」と思える児童の姿勢が必要。
・わからないことがあっても、「誰かに聞けばわかる」という児童の姿勢と、それができる環境が必要。

まとめ概要

児童が主体的に学習に取り組むことは、学習内容の学びを深め、これからの社会において求められる力を育むためにとても重要になってくる。単に与えられた課題の答えを出すだけでなく、自ら学びに積極的に関わり、他者との対話を通じて知識を深化させ、その背後にある概念や既習事項を理解し、ペアやグループで創造的な解決策を生み出すことが大切である。

このような学習にしていくためには、児童が安心して学べる環境を整えることが必要になってくる。児童が自分の考えや意見を発表しやすい雰囲気を作り、「安心・安全な学びの場」が保証されることによって、児童の主体的な学びが促進される。

「自己調整学習」とは、「学習に対して『見通し』をもって準備し、学びを『深め進めて』、学習後に『振り返り』を行うという三つの段階を繰り返しながら実現される」と定義されている。今回の提案は、その定義を実現したものであった。